暮らしのぞき箱

季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

～第二一二号～

寒露　十月八日

斎宮跡に復元建物

内宮から約十二キロ離れた明和町にある斎宮跡。古代、伊勢神宮に仕えた皇女、斎王が暮らしたところを斎宮といいました。斎王は飛鳥時代から南北朝時代まで続き、約六十人を数えました。占いで選ばれると都から赴き、この斎宮に住い、伊勢神宮の神嘗祭、六月と九月の月次祭に奉仕しました。斎王は、内親王か女王から選ばれましたから、都から離れた伊勢の地に高貴な女性がいらしたことになります。

その斎宮跡に初めて、三棟の復元建物が建てられました。斎宮の運営を担当した役所「斎宮寮」の中心となる正殿、西脇殿、東脇殿です。発掘調査で見つかった平安時代始め、九世紀の柱穴の上に、檜皮葺きの掘立柱建物が復元されました。千年のときを超えて、建物がお目見えしたのです。

三棟の復元建物は、史跡公園「さいくう平安の杜」と名付けられました。近鉄斎宮駅から徒歩五分ほど、線路が近くを通ります。檜皮葺きの大きな建物は、よく目立ちます。これまで斎宮跡には、博物館、歴史体験館、十分の一模型などがありましたが、復元建物を目の当たりにすると、改めて、ここに斎宮寮という雅やかな役所があったことが実感できます。

三棟の建物に囲まれた広場は、斎宮寮長官のもと、斎宮寮の儀式や饗宴を行った場所と考えられています。先月にはここで十五夜を前に観月会が開かれ、コンサートや踊りが披露されました。平安の昔も観月の宴が開かれていたのかもしれません。

皇女が暮らした斎宮寮の存在を知ることで、かつての伊勢神宮のイメージが広がります。

文　千種清美

伊勢内宮前
おかげ横丁